

夏休みおすすめ図書 ～小学校1・2年生向け～

「いぬかって！」 のぶみ 岩崎書店 Eノ

かんとろうは、ペットショップで見た犬がほしくなり、お母さんにねだりますが、小鳥のピピちゃんがいることを理由にダメと言われます。どうしても犬がほしいかんとろうは、ピピをじゃまに思ってしまうのですが、次の日にピピが死んでしまいます。ピピが死んだのは、自分があんなことを思ったからだ…と後悔しますが…

「おとうさんの手」 まはら 三桃 // 作 長谷川 義史 // 絵 講談社 913マC

かおりのお父さんは、目が見えません。でも、お父さんは何でも分かってしまいます。においや音、指先、空気、感覚で目で見ているように分かります。そんなお父さんを不思議に思っているのですが、「耳をすましてごらん」というおとうさんの一言で、今まで感じることのできなかった分からないことが少しだけ分かるようになります。

「さかさまになっちゃうの」

クレア・アレクサンダー // 作 福本 友美子 // 訳 講談社 Eア

先生のお手本どおりに字が書けないアルフィー。みんなはちゃんと書けるのに、どうしても字がさかさまになってしまう。みんなが笑うかもしれないと思うと、教えてほしいと先生に言い出せなくて…。

「じゃんけんのすきな女の子」

松岡 享子 // 作 大社 玲子 // 絵 学研教育出版 913マ

とてもじゃんけんのすきな女の子がいました。だれとでもじゃんけん、何を決めるにもじゃんけん。ある日、とてもだいじなことを決めるじゃんけん勝負がまっていました! 女の子とねこのじゃんけん対決のおはなし。

「えんちにち奇想天外」 斎藤 孝 // 文 つちだ のぶこ // 絵 ほるぷ出版 Eツ

おじいちゃんと子どもたちが縁日に出かけて、「五臓六腑にしみるねー」「電光石火のはやわざ」などの会話を繰り広げる四字熟語絵本。

「アンナの赤いオーバー」

ハリエット・ジーフィールド // 文 アニタ・ローベル // 絵 評論社 Eロ

貧しい世の中で生活するアンナ。彼女は自分が着るコートを手に入れたいのですが、手に入れるまでにはいくつもの過程を経ていくことを自らの経験を通じて知るようになります。20年以上前の課題図書です。

「皇帝にもらった花のたね」

デミ // 作・絵 武本 佳奈絵 // 訳 徳間書店 Eデ

世継ぎがない皇帝は、国に住む子どもたちに花のタネを配り、育てさせ、立派な花を咲かせた者を世継ぎにすると宣言します。実は、配った花のタネは育てても芽が出ないのですが、それを知らない多くの人々は別な物に差し替えます。ピンという男の子も一生懸命花のタネを育てますが、みんなと同じく芽が出てきません。しかし、ピンは別な物に差し替えをせず、芽が出てこないことを正直に皇帝に伝え、花が咲かせることができなかつたことを話します。すると皇帝は……。

「すてきな三にんぐみ」

トミー・アンゲラー // 作 いまえ よしとも // 訳 偕成社 Eウス

黒マントに黒ぼうしがトレードマークで、宝集めに夢中だった三人組の泥棒が、すてきなことを思いつきました…。国際アンデルセン賞受賞画家の絵本

「トラのじゅうたんになりたかったトラ」

ジェラルド・ローズ // 文・絵 ふしみ みさを // 訳 岩波書店 Eロ

インドのジャングルに棲んでいた痩せこけたトラは、宮殿の広間でおいしそうに食事をしている王さまと家族がうらやましくてたまりません。ある日、トラはとんでもないことを思いつき…。

「おひさまやのテーブルクロス」

茂市 久美子 // 作 よしざわ けいこ // 絵 講談社 913モC

うさぎのお店「おひさまや」には、かたづけるのが苦手な人のためのものが置いてあります。かたづけが苦手な小学1年生のはるかは、「おひさまや」で黄色いテーブルクロスをすすめられて…。

「あたし、うそついちゃった」

ローラ・ランキン // 作 講談社 Eラ

ルースはちっちゃなものがだいすき。いつもポケットにはちいさなたからものをもって
いる。ある日、校庭でちっちゃなカメラをひろった。そのカメラであそんでいると、マー
ティンがやってきて、「それ、ぼくのだよ！」と言いました。でも、ルースは「ちがう、あ
たしのだもん！」と言ってしまったのです…。ウソをついてしまったルースはどうなるの
でしょうか？

「たいくつなトラ」

しまむら ゆうこ // 文 たるいしまこ // 絵 福音館書店 Eタ

おもちゃ屋のぬいぐるみのトラのところへ「立派なトラになりたい」という子猫が弟子入
りします。憧れのトラになるために、子猫は不器用ながらもけんめいに修行に励みます。
いつのまにか子猫とのやりとりが毎日たのしみになるトラでした。
ある日木に登れという修行で、子猫は見事に木に登って見せます。トラはその姿を見て、
ぬいぐるみの自分は動けない事に苛立ちを感じてしまい、子猫に冷たくしてしまいます。
その冷たくしてしまったことで子猫は大ピンチに！トラは助けてあげることができるので
しょうか？

「りんごかもしれない」 ヨシタケシンスケ作 ブロンズ新社 Eヨ

目の前にあるのは一つの赤いりんご。でも、もしかしたらそう見えるだけで、本当は違
うかもしれない。そう思い始めたらもう止まらない。メカかもしれない、毘かもしれない、
あんごかもしれない、いんごかもしれない・・・？
☆ひとつのりんごからどこまで想像力を広げられるか。みなさんなりの「もし・・・だっ
たら」を考えてみると楽しいかもしれませぬ。

「のっぺらぼうのおじさん」

そうまこうへい // 作 タムラフキコ // 絵 913ソ 講談社

夜の公園で出会った似顔絵描きのおじさんは、実はのっぺらぼう。
「顔を描いてくれ」と言われたぼくは、勇気を出して絵筆を握り、おじさんの顔を描きは
じめた……。ちょっとこわくて、心あたたまるお話です。

「ななとさきちゃんふたりはペア」

山本 悦子 // 作 田中 六大 // 絵 岩崎書店 913ヤ

ななはびかぴかの1年生。1年生と6年生はペアを組むことになっています。
1年間一緒に遊んだり、勉強したりする相手はどんな人かな？楽しみにしていたななだけ
ど、思っていた人とは違って……。心があたたかくなるお話。

「しゅくだいさかあがり」 福田 岩緒 // 作・絵 PHP研究所 913フ

「さかあがりのできない子は、夏休みのしゅくだいにする」と先生に言われたけれど、
夏休みに入ったとたん、さかあがりの事を忘れてしまったゆうた。夏休みはあと1週間。
さかあがりはまだ1回もできていない。何度やってもできないゆうたは、「もう練習なんか
するもんか！」と思ったけれど……。

「ごきげんなライオン すてきなたからもの」 ルイズ・ファティオ // 文

ロジャー・デュボアザン // 絵 今江 祥智&遠藤 育枝 // 訳 BL出版 Eデ

動物園で人気者のライオン。動物園にやってくるお客さんからも、園の動物達からも大
人気です。ある日動物達は人気者のライオンに遺言状を書く事を提案します。
でもライオンは動物達に何をのこしてあげられるのか分かりません。そんな時、仲良しの
飼育係の息子フランソワくんに「きみはとってもすばらしい宝物をもっているよ」と教え
られて……。

「へいわってすてきだね」

安里 有生 // 詩 長谷川 義史 // 画 ブロンズ新社 Eハ

この詩は、2013年当時小学1年生だった安里^{あさとゆうき}有生くんが書いたものです。
同年6月23日、沖縄全戦没者追悼式で「平和のメッセージ」として朗読しました。
「へいわって なにかな。ぼくは、かんがえたよ。おともだちと なかよし。かぞくが、げ
んき。えがおで、あそぶ。」 子供らしいまっすぐで素直な表現…平和への願いを込めた純
粋な言葉が、心を打ちます。

「おさきにどうぞ」 森山 京//作 ささめや ゆき//絵 文溪堂 913.6モ

公園までの細い一本道を急いでいたブタの子。前にはつえをついたネコのおばあさんがゆっくりと歩いています。「こまったな」と思いながら近づいていくと、おばあさんは「おさきにどうぞ」と道をゆずってくれました。その言葉が印象に残ったブタの子は、公園で友だちに「おさきにどうぞ」と言ってみたところ…。

「ネコのピート だいすきなよっつのボタン」

エリック・リトウィン//作 ジェームス・ディーン//絵 大友 剛//訳
ひさかたチャイルド Eデ

ネコのピートは、カラフルでかっこいい4つのボタンがついたこのシャツが大好き。ところが・・・なんてこった！ボタンがひとつ、またひとつととれちゃった！！さて、ボタンが全部なくなっちゃって、ピートは悲しんだでしょうか？

「家出しちゃった」 藤田 千夏//作 夏目 尚吾//絵 文研出版 913フ

「もう うちの子じゃ ありません。」 かあさんにしかられた。じゃ、出ていくよ。家出してやる！パジャマとハブラシ、パンツにくつ下…。リュックに詰めて家を出たけど、さあ、どこに行こう？

大人から見たら小さな出来事。でも、子どもには大冒険！みんな一度は経験したことがあるようなお話。

「そつぎょう」 松本 猛・松本 春野//作 松本 春野//絵 岩崎書店 Eマ

原発事故のあと、お母さんと2人で広島へ引っ越したまや。おじいちゃんのお祝いに久しぶりに福島に帰ってきました。今日は、前に通っていた学校の卒業式です。自転車で学校に行ってみると…。

★原発事故の影響で、今まで住んでいた土地に住めなくなった子のお話です。

当時小学生だった子がもう中学生になったりします。時間はあっという間に流れるけれど、あの辛い震災を忘れてはいけなと思いました。

「ラチとらいおん」 マレーク・ベロニカ // ぶん 福音館書店 Eラチ

気が弱くておくびょうな男の子、ラチ。お友達もなかなかできません。ある日、ラチは小さなライオンに出会います。ただのライオンではありません。とても強いライオンです。ラチはライオンと一緒に今まで怖かった色々なことに挑戦します。ラチは強くなれるでしょうか。

「ゴロジ」 戸田 和代 // 作 石倉 欣二 // 絵 学習研究社 913ト

「ぼく」の大切な猫のゴロジ。ずっと家族のように暮らしてきたのに、新しい引っ越し先では猫が飼えないらしい。ゴロジは絶対に置いていかない！！と思っていたのに、次の日の朝ゴロジがいなくなっていた。引っ越し当日になってもゴロジは見つからなくて……。 「ぼく」と猫のゴロジの心あたたまるお話です。

「ねこと友だち」 いとうひろし // 作 徳間書店 913イト

ノラネコとして生きてきたねこ。一人暮らしのおばさんにかわれるようになり、「ブータレ」と名付けられました。おばさんの家には、ちいさな金魚鉢の中に魚が2匹いました。ねこは、その魚の夫婦と友達になりました。毎日たくさん話をしました。ある日ねこは、金魚鉢から飛び出している魚を見つけました。その魚助けようとした時、ねこは変な気持ちになりました。

★ねこの姿を通して友達のことを考え、友達のことを好きになる物語です。